

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

10月号

平成28年(2016)9月30日



一日一日をていねいに生きる。

校長 市川幸男

秋雨前線の活発化に加え、台風の来襲と、今年の9月は晴れることが少なく、子ども達も、教室での休み時間の多さに、やや消沈していましたが、月末になって爽やかな青空が見え、これまでの雨空を吹き飛ばすように校庭に出て、元気な姿を見せてくれています。そうこうしているうちに季節は確実に秋らしさを増し、校庭のミカンや柿の実が色づいてきました。子ども達にとっても前期の学習のまとめに入り、これまでの学習や生活の中でできるようになったことを振り返る時がやってきました。多くの実りが子ども達自身で見つけられると良いと思います。保護者、地域の皆様には、4月の始業以来、たくさんのご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。引き続きではありますが後期もよろしくお願い申し上げます。

さて先日、6年生と二泊三日で修学旅行に行って参りました。人工美の極致とも云える東照宮、それと対をなしているような豊かな日光の大自然を満喫してきましたのですが、その中で大いに感心をしたことがありました。きっかけは一日目の夕食の時間でのことでした。「いただきます。」の挨拶とともに一斉に箸をとり、食べ始めた時です。皆、一日の活動を終え、お腹がすいていたのか、目の前のごちそうを次々と平らげていき、おかわりをする子も出てきます。その中、一人静かにそしてゆっくりゆっくりと口に運んでいる子がいました。食べる所作の美しさと日光の味をじっくりじっくりと確かめかみしめる姿が心に留まりました。明けて二日目、戦場ヶ原のハイキングの中でも、折に触れその子を見ていたのですが、目的地に向け、前を向き、ひたすら歩く子が多い中、周りの緑の美しさを味わい、水の清らかさを満喫する姿が見られました。次々と新鮮な景色が目に入ってくる旅も楽しいものですが、こういった自分の周りにしっかりと目をとめ、じっくりその良さを味わう旅もまた良いものだと、再度感心致しました。そんな折、ある方から、こんなお話を頂きました。



小学校の間に、子ども達の五感に基づく動きを育てておくことが大切である。そのために、ていねいに食べ、ていねいに勉強をし、ていねいに話し、ていねいに遊び、ていねいに寝る。つまり、ていねいな生き方を身につけることが大切である。

話の主旨としては、「五感に基づく動き、つまり、見る・聞く・嗅ぐ・触る・味わうといった活動は体験的であり、それは心の感動に直接繋がるものでもあります。だからこそ小学生という成長著しいこの時に、より深くより豊かなものを与えたい。」ということだと思います。それを具体化した言葉が、表題に挙げた「ていねいに生きる」なのではないでしょうか。いつも先を急ぐだけでなく、時には立ち止まり自分の足下を見つめ、戦場ヶ原に咲く一輪のリンドウの花に目をとめる。そして湿原の秋の装いを五感すべてで感じ取る。そんな修学旅行であってくれればと願った一日でした。ともすると私たちは、時間や予定に追われ、先へ先へと子ども達を駆り立てていきがちです。つい口にしてしまう「早く。」の一言を押さえ、子どもの興味・感心に共感しながら寄り添い、その価値を深く味わい高めていく。心懸けたいと思います。